急性膵炎に続発した仮性嚢腫に対して，外瘻法を試み，瘻孔の閉鎖が遅延したので，外傷後に発生した第2例では，嚢腫と空腸間にRoux氏Y字吻合を行い，内瘻を造設し全治せしめた．外瘻法は術式が安全で簡単であるが(1)瘻孔の閉鎖が遅延すると日常生活に不便で(2)皮膚糜爛を伴い(3)慢性膵炎と合併し易く(4)嚢腫再発の可能性があり(5)体液，膵液が喪失する欠点があるので，嚢腫壁が縫合に耐える厚さを有するなら内瘻法を試みるべきであると考える．特に小腸とRoux氏Y字吻合を行うならば，小腸は移動性に富み，輸出脚の長さを自由に選び得，嚢腫内への消化管内容の逆流ひいては嚢腫の感染等の危険も殆んどない．而し吻合部の縫合不全に対しては充分留意する必要がある．

追加 木村

外傷性のPseudozysteの場合は壁が不完全で内瘻を造り得ない場合あり，そのような際には一時外瘻にするより方法がない．この際，NaFや吉岡氏報告のような薬剤投与法が考えらるべきである．

京都外科集談会第378回例会

昭和36年9月30日

(1) 汎発性鞏皮症の1例

外I 熊田 馨

29才の主婦にみられた汎発性鞏皮症に対して，左頸動脈腺剔除，ピロカルピン注射などを行つた．

治療前後3回に亘つて，尿クレアチン・クレアチニン，血清蛋白分画，組織標本などの検査を行つた．

治療後，臨床的，組織学的に著しい軽決の所見を得た．

退院半年後，病勢は進行せず，臨床的にやや軽快している．

質問 木村助教授

演題1.に対し，術前手術効果がどこにあらわれると予想しましたか．

答 外I 熊田 馨

皮膚の軟化を予想したがvascularizationが表面に出てくるとは思わなかつた．

追加 木村良司

Leoeeisの分類ではRaynad氏病の高度のものには鞏皮症が伴われることになつている．即ちRaynaudの中に内分泌障害性のfactorがあると思われる．Glomectomyが Hautの硬化に奏効した事実は交感神経手術以外の奏効機序ではないだろうか，

(2) 虫垂粘液嚢腫の1例

市立宇和島病院外科

池内 彰・横山 敏
福田治彦・○山本豊城

われわれは，最近，43才の婦人に於いて，急性虫垂炎の診断の下に手術を施行したところ，それが長さ10cm，直径3cmの大きさの虫垂粘液嚢腫であつた症例を経験したので，これを報告し，併せて2,3の文献的考察を行つた．

(3) 無熱に経過した外傷性脳膿瘍の1例

市立宇和島病院外科

池内 彰・横山 敏・○山本豊城

われわれは，最近，21才の男子の頭部外傷患者に於いて，受傷時意識障害なく，12日間のlucid intervalの後に，意識障害と片麻痺が急速に現われ，時間の経過と共に進行的に増悪して行つたこと，また，一般状態が重篤であるにも拘らず入院時まで無熱に経過していたことから，はじめ外傷性頭蓋内出血，とくに亜急性硬膜下血腫を疑つて救急開頭術を行い，それが外傷性脳膿瘍であつて，膿瘍の切開排膿後ドレナージ法により治癒した症例を経験したのでこれを報告すると共に，脳膿瘍と発熱，脳膿瘍手術々式の検討，手術成績と手術前の意識状態との関係等に就いて，文献的考察を加えた．

質問 青柳教授

起炎菌はブドー球菌でしたか，

質問 木村助教授

Hematomかinfizirenしたのですか．

答 市立宇和島病院外科 山本豊城

a) 青柳教授に対する答

膿汁の培養で Erreger は証明出来ませんでした.

Kerr等は脳膿瘍47例中12例は培養上無菌的であつたと報告して居ります.

b) 木村助教授への答

本例では，異物が脳膿瘍の原因となつたと考えられます.

(4) 遊走脾の手術経験

大和高田市民病院外科
田中庸介・杉本雄三

31才の主婦，腹部腫瘤，腹部索引痛及び出血傾向を主訴として来院す．左下腹部に小児頭大，可動性の腫瘤を触れ，軽度の貧血を認めた．腹部腫瘤の診断の下に開腹したところ，腫瘤は脾臓で他の臓器と癒着せず，横隔膜下面，胃大彎，大腸脾彎曲部より発して，脾門に終る一本の茎を有して，左下腹部に下垂していた．この茎の長さは20cmで，中に怒張し乍ら，蔓状にまつわりつく血管を見ることが出来た．他の内臓下垂，肝肥大及び肝硬変は認めなかつたので遊走脾と診断した．脾臓の重量600gで血液含有量多く，組織学的に軽度の鬱血脾の所見であつた．術後経過順調で赤血球の増加を見，出血傾向も改善された．本症は茎捻転を起こすと急性腹症の様相を呈すという．また頻回の分娩後に女性に発生することが多いので，臨床的に卵巣嚢腫茎捻転と鑑別の困難な場合がある．

質問　　木村助教授

膵尾との関係はどうなつていたか.

質問　　外Ⅱ　城谷　均

脾腫と白血球減少との関係は如何に考えるか？

われわれの経験では，Banti 氏症候群においては Pancytopenia を，また慢性うつ血性脾腫を来す疾患，例えば Budd-Chiari 氏症候群や収縮性心膜炎等においては Neutropenia を示すことが多く，後者では殆んどの例に貧血を伴つていなかつた点で，只今の遊走脾も後者に属し，実に興味深い.

質問　　外Ⅱ　石上浩一

犬では正常でも遊走脾がある．この際左胃網膜動脈に相当する動脈が２つに分れている．その臨床例ではどうでしたか.

答　　大和高田市民病院　田中庸介

膵尾との関係：

膵尾は特に異常を認めず，脾臓とは関係がありません.

茎について：

組織標本で，血管，リンパ管等以外に特異なものは含まれていません.

脾腫と白血球減少との関係：

出血傾向の改善を来したことなども考えあわせて Hypersplenismus があつたとも思われるが組織学的には鬱血脾の所見以外は見られなかつた.

追加　　木村良司

Milztumorの時には大抵 Haemosidelin 顆粒があるから，これある故 Stauungsmrlz と断定しない方がよいのではないか？

質問　　石上浩一

A. gastroepiploica sinistra が犬では二本になつているがこの場合如何であつたか.

答：胃の位置，大きさに異常なく，A. gastroepiploica sin が二本になつているようなことはありませんでした.

(5) 稀有なる小児手術経験

大和高田市民病院
杉本雄三・小延知暉・原　慶文

症例１：12才少女，主訴弛張熱．臨床検査成績から先ず，縦隔洞膿瘍を考え抗生物質の投与を行ううち，第７胸椎の Buckel を生じてきた．左背第７肋間で試験穿刺を行い．黄色粘稠な膿汁を得，菌検査で黄色ブドウ球菌を証明した．第７胸椎の黄色ブドウ球菌による化膿性脊椎炎と診断して手術し，軽快せしめた.

症例２：６ヵ月男児．主訴有痛性腹部膨満及び吐乳．全身虚脱状態を呈し各種薬剤投与中，腹水穿刺で膿性胆汁性腹水を証明し，開腹した．腹腔に黄色腹水約200ccを得，総輪胆管に穿孔の跡と思われる示指頭大の暗赤緑色の膿苔附着を認めた．このような乳児における胆汁性腹膜炎の報告例を文献に求めるのは至難である.

質問　　京大整形外科　村上白士

1) 急性脊椎炎の発病前に先行病巣と思われる化膿創の有無

2) 膿瘍の所在部位

3) 棘突起　椎弓に変化はなかつたか.

答　　大和高田市民病院外科　原　慶文

Primäre Herd と思われるものは，腰部にあつた Furunkel と考えております.

膿瘍は第７胸椎の高さで，左側第７肋間，前胸椎部

にありました．尚病変は棘突起にはなく，椎体の上に限局しておりました．

(6)　興味ある膀胱異物の1例

大阪済生会野江病院外科
井上輝之丞・藤田竜五郎・西田茂樹

吾々は最近排尿困難，並に臍部瘻孔の主訴のもとに入院，検査の結果，膀胱内異物（針金）による膀胱壁の穿孔，臍部の尿瘻である事が判明した一例を経験した．異物は3年来，膀胱内に留つていた針金でその長さは約1m結石化したもので，その先端が膀胱壁を穿孔し，臍部に尿瘻を形成したものであつた．膀胱高位切開により異物並に瘻孔摘出し軽快退院せしめ得たが若干の文献的考察を加えて報告した．

追加　　木村良司

膀胱内へアビンを膀胱鏡により取り出した経験がある．

(7)　副腎腫瘍剔出治験例

外Ⅱ　木村忠司・○長瀬正夫

褐色細胞腫2，原発性高アルドステロン症2，Cushing氏症候群1，計5例の副腎腫瘍を経験し，いずれも腫瘍剔出術により治癒乃至軽快せしめ得た．この経験に基ずき，副腎腫瘍の手術に際して問題となる2～3の点について述べた．

副腎到達法としては，我々は次のような理由から専ら前方よりする経腹膜法を用いている．

（i）　患者の体位をかえることなく，両側副腎を同時に検索し得る．術前に患側を決定し得ない場合が少なくなく，両側副腎を検索する必要のあることが少なくない．また，副腎手術に際して，術中に体位をかえることは屢々危険な血圧低下を招く惧れがある．

（ii）　必要に応じて大動脈周囲，骨盤臓器をも検索し得る．

（iii）　広い手術野が得られ，血管殊に副腎静脈の走向を適確に把握し得る．

次に，副腎腫瘍の剔出手術に際しては，先ず副腎静脈を確認し，可及的すみやかにこれを結紮することが必要である．副腎静脈を確認すれば副腎の発見は容易となる．また，副腎静脈をまず結紮すれば，爾余の手術操作は容易且つ安全となり，更に腫瘍に対する圧迫等によつて過剰のホルモンが循環系に流入することが防止され，無用の血圧上昇を来す惧れがなくなる．

(8)　家兎肝 Anoxia 時の血清，肝ならびに諸組織 Transaminase 活性の変動について

倉敷中央病院外科　朝隈六郎

家兎肝動脈結紮により，1時間結紮例，3時間結紮例，6時間結紮例，12時間結紮例，24時間結紮例（以上完全結紮）及92時間結紮例（不完全結紮）を作り，それぞれ，血清，肝，その他諸組織の Tr 活性を測定し，これらを組織像と合せて検索をすすめ，以下の結果を得た．

1)　血清 Tr 活性値は肝動脈結紮時間の延長と共に上昇し，肝実質の変性，壊死の程度とほぼ一致して変化した．

2)　肝静脈血，門脈血，末梢血の血清 Tr 活性値を比較したところ，ほとんど常に肝静脈血々清に高い Tr 活性値が得られた．

3)　肝 Tr 活性値は6時間結紮迄は上昇し，12時間結紮以後で低下し，これを血清 Tr 活性値と比較すると，両者は必ずしも常に鏡面像を呈するとは限らない．従つて，血清 Tr 活性の上昇は肝実質細胞の崩壊による肝内 Tr の血中への流出のみによるのではなく，肝内 Tr 産生能の上昇併せて細胞膜の透過性の変化も重要な因子と考えられる．

4)　肝以外の諸臓器に関しては，

イ）　副腎 GOT活性は初めは約2倍，次いで約4倍へと上昇するが，GPT 活性は変化少く，むしろ低下する．

ロ）　心及び腎の Tr 活性も上昇するが脾，筋，膵，肺，腸間膜淋巴腺等では著変が認められない．

5)　胆汁 Tr 活性の方が尿 Tr 活性よりも遙かに高い値が得られた．

質問　　外Ⅱ　石上浩一

測定の際に補酵素を加えておられますか．アポエンチームがあつても，コンエンチームが不足で酵素活性があらわれないことがあると思います．

答　　倉敷中央病院外科　朝隈六郎

Frankel 法によつて測定しておりますので補酵素は加えておりません．肝実質細胞の変性，壊死を考えるとやはり補酵素を加えて行うべきだつたと思います．しかし，全体の傾向はつかむ事が出来たと思います．

(9)　比較的稀な膝関節鼠の1例

京大整形　岡本　佼

18才男子の左大腿骨,腓側踝後外側部に外傷を契機として発生した離断性骨軟骨炎に因ると思われる有茎性の大きさ4.0×3.5×1.5cmの大きさの関節鼠の1例を経験し，その発生部位及び巨大な点で比較的稀な症例と思われるのでこれを報告し，併せて文献的考察を加えた．

(10) 厚生年金玉造整形外科病院に於ける整形外科機能訓練に就いて

玉造整形外科病院
大　塚　哲　也

本院の整形外科機能訓練患者で性格テストを行つた337例に就いて分類すると，①躁うつ質：48例，②てんかん質：27例，③分裂質：108例，④神経質36例，⑤ヒステリー質60例，⑥Non型：58例で，分裂質が最も多い．以上各型に於て中性的性質を有するものが40～50%を占めているが，症例の79%が男性である所から眺めると問題であろう．

次にNon型を除いた279例に就いて調べると，明暗型分類では，明型は23.7%，暗型，41.8%，明暗中性型：26.2%，明暗対立型8.3%で暗型が多い．

又緊張・弛緩型分類では緊張型：57.7%，弛緩型：27.2%，緊張・弛緩・対立型15.1%で緊張型が最も多い．

全体を綜合的に眺めると大略的半数が性格的には変動する可能性を有している．是等の結果は整形外科機能訓練開始迄の経過中におかれた患者の環境或は内因又は外因の諸種心理的要素により，一般に考えられる所の心理状態とは意味が稍異なつている事を充分考慮に入れておくべきである．従つて是等の点を考慮に入れて，訓練中個々の心理指導を行う事が必要である．

質問　　木　村　忠　司

てんかん質，分裂質等はてんかん病，分裂病などと関係があるか？

答　　大　塚　哲　也

関係はない．